No. 71
昭和42年4月10日
発行／白根市役所
編集／企画審議室

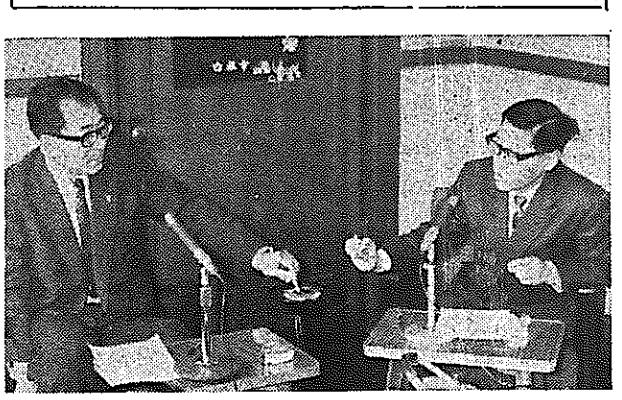
広報しろね

人口のうごき

(3月1日現在)		(3月中)	
人口・	33,890	出生・	68
男・	16,235	死亡・	24
女・	17,655	転入・	88
世帯・	6,359	転出・	282

本年度の一般会計予算の総額は、5億6,843万円にきまりました。前年度当初にくらべ3,413万円ふえています。白根市の台所では、これからの1年間、どんなメニューになっているのか、石黒泰治さん（新潟日報社記者）から、予算編成の柱と予算の内容、施政の方針それに当面問題になっている点などを、吉沢市長にインタビューしてもらいました。そのときのあらましを紙上録音で、お届けします。

予算を聞く



3月24日 市長室で

白根地区に保育園

ことしはきりつめた予算

問い まず、最初に新年度予算編成の柱をどこに置かれたか、そういうことから伺いたい。

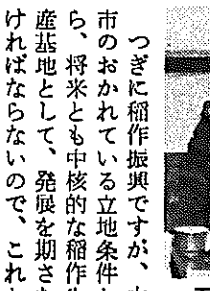
答え 第一の柱は福祉関係第二は道路関係、それに第三は教育予算、大きな柱はこういうところにおいて予算編成しました。

問い 新年度予算の規模は市始まって以来一番大きくなっているわけですけれども、それを分析してみると、必ずしも事業面などから考えると大きいともいえないような感じもします。内容からいってどんな特徴があるんでしょうか。

答え 前年度当初予算が五億三千四百三十万円、新年度予算が五億六千八百四十三万円、そうすると三千四百万円ふえたわけです。腹づもりとしては、なんとか前年度当初予算の規模で押さえたい考えで編成に臨んだのですが、なかなか作業が思うように行かなくて……。いま、いわれたように、金額の上ではたしかに大型のようです。ところが内容を分析すると、むしろ緊縮予算だという感じがするのです。まあ、いろいろ項目的に切りつめて、なんとか事業費を確保しよう、ということで取り組んだわけです。予算の内容をみると緊縮予算で執行の面では、相当窮屈な面がでてくる、という性格のものではないでしょうか—。

ですから、内容的に特徴というよりも、全般的なそういう圧縮した中で特徴がでてくる程度で、前年度にくらべてこういう点が特色になっていますね。予算はまずお聞きしたい。

答え 一般的にいって、いままでの構想を継承して行く方針ですが、最近とくに、農業後継者の育成、確保がますます重要な問題になっているので、これまでの後継者育成奨学制度をそのまま継続しました。さらに農業振興融資予託金を増額して、後継者育成など稲作営農集団を指定して指導と援助を行なって、稲作管理技術の改善、機械施設の共同利用や共同作業などの、集団的取り組みを目標としてその集団稲作改善事業を展開することに経費百二十万円を計上しました。なお、これと合わせて米一俵増産運動を組織、経営反収五百七十キロ以上の収量の多収をはかる考えでいます。



吉沢市長

農業後継者に融資制度
米一俵増産に力こぶ

問い 保健衛生関係は、あまりパッと目立つものがなかったような気がするんですが

答え 新らしいものは当初予算にはいっていません。ただ、防除薬剤などは前年度の実績と考え合わせて確保するように考慮してあります。それから機械の導入を考えて、薬剤散布機二台を新規購入します。であとは、火葬場とか、し尿処理場などの関係は組合立になっているので、予算上にはズバリでてこないで、負担金の中にはいっているわけなんです。

問い 商工関係で、目新らしいものはありますか。

答え 商工業の振興については、引き続き各業種別講習会、あるいは技術研修を強化して行く方針です。とくに本年度は、輸出産業の育成奨励費、仏檀施設の導入に対する補助を計上しました。

問い 土木関係ではどうですか。

答え 道路や橋の整備改良は、産業経済振興のもとである、こういう考え方で極力その経費を確保するようにつとめ、とくに、市道は要望箇所を自分自身で現地調査をして、緊急度や事業効果を検討の上、予算措置をしました。

つぎに、国県道ですが、新国道八号線の市街区間の歩道整備、信号機の設置については、近く確定の見込みで、県道大野・臼井間と白根・臼井間の舗装は四十二年度中に完了の見とおしです。また、臼井橋のかけ替え工事は、おそくとも四十四年にしゅん工するよう、促進して行く方針でいます。

それから、将来雑然とした市街地に拡大しないように、市街地の周辺に最少限の道路を整備するためその用地だけでも確保するように、いま建設課で検討しています。

問い それから道路とも関連する交通問題ですが、最近本市においても交通事故の発生が相当多くなっています。市民の生命とか財産を守るという見地から、交通と消防について、どんな考慮がなされていますか。

答え 交通対策については総務費の中に交通安全対策費を計上し、それから外郭団体の交通安全対策協議会には、要求内容を充分検討して予算措置をしたつもりです。さらに、新規に市独自の交通対策事業計画をたてて、とりあえず、交通安全に対して、市民の関心を呼び起こす、ということで市内の所々に交通安全塔を立てる予算、あるいはチラシを配って啓もう宣伝する経費をあげました。

それにしても、いまいったことで、完全に交通事故が防止できるか、というとそういうものではないと思いますねいわゆる通交する市民ひとりひとりが注意して行かなければならないことで、市民全体の注意を喚起する運動を、常時強力に展開して行くことが、大事なことではないでしょうか。

それから消防の関係では、昨年は火事が少なかったのですが、ことしはもう昨年を上回っています。これはやはりいくら施設を整備しても、それによって火事が防止できるわけではなく、住民の一致した常の心構えというものが大事なんで、新年度から「消防の時間」を設けて、市民のみなさんの協力をいただいて、なんとかこれ以上火事をださないようにやって行きたい。

問い つぎに教育関係予算にふれてもらいたい。

答え 教育関係においては物件費の一般的削減の方針にかかわらず、教育の特殊性を充分考えまして、むしろ増額をはかってあります。小・中学校ともそれぞれ教育振興費の充実をはかるため教育備品の整備費として、四百九十二万円を計上、学校建設費では臼井小体育館の補修などに二百六十四万円、大鷲中特別教室建設に四百二十万円、白根中と庄瀬小の便所工事にそれぞれ百五十万円と八十万円をみています。また、社会教育関係では、公民館活動を促進するため巡回文庫の自動車を一台（五十万円）購入することにしています。

問い 人件費は、どこの地方自治体でも大きな負担になっていると思いますが、年々ふえてゆくことについてお考えをお聞きしたい。現実に前年度当初予算比三千万円増が、そっくり人件費にまわっているというようにみられるんですが。

答え 人件費は前年度当初より約二千八百八十万円くらいふえています。しかし、人件費がふえるのは、よいか、悪いかということになると、いろいろの考え方があると思いますが、年々ふえてゆくことについてお考えをお聞きしたい。現実に前年度当初予算比三千万円増が、そっくり人件費にまわっているというようにみられるんですが。

答え 人件費は前年度当初より約二千八百八十万円くらいふえています。しかし、人件費がふえるのは、よいか、悪いかということになると、いろいろの考え方があると思います。給与水準は一般経済状勢の伸展につれて上昇し、一方仕事はけっして減らないで、むしろ年々拡大しています。たとえば保育園を一つつくれば、最少限度五人や六人の職員が必要で、これはサービスを提供する面でふやさざるを得ないんです。ただ、それに財政事情そのものがついて行けないこと、国の財政的な裏づけが不充分、そういういろいろの原因が積み重なって問題になっているけれども、いわゆる人件費問題に対する考え方としては、行政の中ではできるだけ事務能率の向上、配置転換などで埋め合わせて職員の増加をくいとめていかなければならない。

人件費が市税をオーバーすること三千五百万円、市税と地方交付税合計で三億六千四百万円、その六十%が人件費になるわけですが、これは基本的な問題があって、人件費だけの問題ではないから、市町村の財政構造の現状からいって、国で財政制度全体の上で考えてもらわなければならない面が大きいと思っています。

問い それから予算の面には、ことしも顔をみせなかったようですが、学校統合と市庁舎建設は……。

答え 学校統合については鰺潟分校を白根小学校に統合する予算が顔をだしたと思いますがね。統合は、今までもずっと検討して来ましたが、非常にむつかしい問題です。みなさんからスッキリと割り切ってもらうには、大変な苦労がいるんです。教育委員会では、部落別に懇談会を開いたりしていますが、最近の動きとしては、住民のみなさんも割り合い積極的に考えて行きつつあるようです。

市庁舎は早く建てたいとは思っていますが、やはり財政が問題でしてね。できるだけ早く、せめて土地ぐらいは確保しておきたい、という考え方はもっています。

問い ところで、施政方針演説の中で、市歌の制定を検討しているといっておられたが、具体的にはどんなことなんでしょうか。

答え 具体的なものはこれからつくるのですが、ことしは市歌または市民歌それに市民表彰規定というものを制定しよう、ということなんです。たとえば嘱託員とか、そういうような仕事をいつも一生懸命やってくれているかたがあるわけです。十年も二十年も引き続いていてね。ところが全然それに報いるものがないわけなんです。そういうものをいっさい総合した表彰規定を制定したいということ。それから市民が市を愛する心をはぐくみ、士気を高揚するということを目標にして市歌あるいは市民歌を作ろうと、検討をさせています。

問い それから、ガス水道会計の赤字のシワ寄せが、一般市民に行くのではないか、という心配もあるわけですがこの際、はっきりさせておいた方がよいかと思いますが。

答え ガス水道会計の財政再建は、去年から話がでてきているもので、いよいよ新年度から、財政再建の計画年度にはいるわけで、どちらも昭和四十五年度までに財政再建を完了しようというものです。

市歌の制定を検討

巡回文庫の車を購入

要求のかげには負担が

問い 市民が一番心配するのは、料金の問題だと思いますが。

答え 諸物価の値上がりとか、管理費の膨張などを考えていったら、当然料金の合理化も検討してみなければならない性格のものだろうと思います。料金をすえ置いて財政再建をやって行こうとするとこれは一般会計から繰り出す方法しかないわけです。ここで問題になるのは、地方税はいわゆる応能負担でして、水道料金などは、応益負担がたてまえですから、すこしすじがとおらないことになりますね。

最近、とくに機会あるたびにいっているんですが、要求のかげには必ず負担がつく。ただ、それと合わせてわれわれ執行する側としては、不経済を指摘されるような、あるいは、いまさかんにいわれている「黒い霧」に包まれているなどという指摘を受けないような態度と姿勢、そういう姿で執行して行かなければならないし、なお、経費の節約をも充分はかっておいて、みなさんから、負担していただかなければならないのは負担していただく、こういう考えかたでいかなければだめだと思います。

石黒泰治さん